

秘めたる力を解き放つ夏！

富久町児童館・学童クラブ

秘めたる力を解き放つ夏！

子どもの姿を踏まえ、どうしてこのテーマになったのか

- 1年生：自分の過ごし方を確立している。特定の子と決まった遊びをしている
 - 2年生：発信力・推進力は抜群！やるべきことや他者の気持ちが自身の「やりたい」に圧倒されがち
 - 3年生：豊富なアイデアや企画力を持っているが、自身が先頭に立って実現することに意欲を感じない
 - 高学年：企画や発信好きな子が多いが登室時間が短く、力を発揮しきれていない
- 主たる生活の場が学童に移る夏休みなら「4月からの学童生活でまだ出していない姿や想い」「放課後という制約がある中で発揮しきれていない力」を見せられるのでは

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）

- 1年生：**いつもと違う児童と関わり、自他の新しい姿に触れる
- 2年生：**やるべきことや他者の想いに向き合いながら、やりたいことを形にする
- 3年生：**小規模な環境でアイデアを発揮し、じっくり取り組み、過程や結果を他者と共有することで繋がる楽しさをより感じる
- 高学年：**どんな夏休みにしたいか職員と一緒に考え、時には頼られる中で実現していく

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）

- ①子どもの興味に応じた活動・行事を設定し、一緒に作り上げる
- ②自身から発信するには至らない子の興味関心を引き出す



活動②カラダ探し

ねらい

自分のやりたいことを形にする

やりたいことに向かう時に手段の選択肢を増やす

振り返り

- 「カラダさがし」というテーマがメンバー間でイメージを共有しやすく、楽しそうな雰囲気が最後まで続いていた
- Kさんが中心になったことで、メンバーを増やしてもやりたいことに向かう姿勢がぶれずに形になっていった

次の活動へ



活動の様子・こどもの姿の考察

- ◆ 紙粘土でカラダのパーツを作った
- ◆ テストプレイを3回行った
- ◆ ブース担当のメンバーを集めた
- ◆ Kさん：危機感があり、作業を進めたいと考えていた
→Hさんに作業を丁寧に引き継ぐ
- ◆ HさんはKさんの頼みを受け入れたが、予想していたより時間のかかる作業で、帰宅までに完成しなかった
- ◆ 翌日、Hさんは登室日ではないのに、来館して作業の続きをしていた
⇒月曜日にKさんが悲しまないようにとの思いがあったのか

活動③看板作り

ねらい

子どもが、安心できる環境で自身の力を発揮する。
他者とつながる楽しさを知る。

振り返り

同学年での関心理解を得られ、男女関係なく仲間意識が強まった。
その安心感からか、以前からあった、他学年への苦手意識を言葉にして伝えてくれるようになった。

次の活動へ



活動の様子・子どもの姿の考察

◆役割の提示

看板づくり、司会と開会式、スタンプラリーのカード作りをお願いした
⇒明確な作業を提示して、あなたの力を見込んで頼りたいんだというお願いベースで、受け入れてくれた。

◆環境づくり

広い部屋を貸し切って
大きな紙に自由に描けるよう設定
⇒自分たちの世界観に浸れる環境でのびのびと自身の発想を表現した。

仲間として一緒に取り組む職員による肯定的な声掛け
⇒子どもたちも肯定的な声かけが飛び交い、突拍子もない発想にも否定的な言葉がない。職員にも役割分担を提示してくれて、仲間意識を感じられた。

活動④飾りつけ

ねらい

自身から発信するには至らない児童の興味関心を引き出す

振り返り

とみサマーに参加しなかった子どもに対し、**秘めたる力**は解き放てなかった

しかし、「これ自分がやったんだ」と嬉しそうな様子で職員に話していた

経験が少ない子を取り込むことができ、**来年につながるステップ**となった

次の活動へ



活動の様子・子どもの姿の考察

- ◆ 昼食後のゆったりタイム(食休みの自由な時間)で職員がわっか飾りの作業をはじめた⇒
 - ・ 「なにやっているの？手伝ってあげる」と自ら声をかけてやる子ども
 - ・ 「得意だよ！」と集中してやり込む子ども
 - ・ 仲良しグループでやる子ども
- ◆ わっか飾り+αでつける飾り
⇒ **子ども独自の発想を引き出したい！**
 - ・ 職員が提灯をタコにアレンジしたが、子ども達から新しい発想はでなかった。しかし提灯タコを真似したり、子ども同士で教え合っていた
- ◆ 職員の声掛け
⇒ 「とみサマー何もやっていないでしょう？これだけでもやってみない？」と声を掛けて取り組んでいる子どももいた

活動⑤射的

ねらい

お客さんを楽しませるという共通の目標に向かう中で、

- やるべきことや他者の想いに向き合いながら、やりたいことを形にする
- いつもと違う児童と関わり、自他の新しい姿に触れる

振り返り

“自分”と“他者”という直接的な二点の関わりではなく、関係性の中に“お客さん”という第三点が入ったことで、最後まで活動に取り組む姿や、自他の新しい姿に目を向ける姿に繋がったのではないか

次の活動へ



活動の様子・子どもの姿の考察

- ◆ 1年生のJくん、Rくん、2年生のTくん、Fくんの4名で活動がスタートする
 - 輪ゴム銃への期待があるように見えたので、「お客さんのため」という視点を渡す
- ◆ Kくんがメンバーに加わりたいと伝えるが、元々のメンバーに渋られる
 - 背景に普段のKくんの姿や、メンバーとの関わり
- ◆ お試しとして準備の参加を受け入れることにKくん：1週間今までと違う姿を見せ続ける
 - 4人がKくんを見直す機会になった
- ◆ 一度活動が停滞してしまった際にも、必要なことを考え、100個以上の景品を作り上げた
 - 「お客さんのために」という視点の影響
- ◆ 当日：他のブースに気を取られる場面はありながらも、店番として忙しく働いた

振り返り



テーマへの振り返り

各学年に沿った「まだ出していない姿や思い」「発揮しきれていない力」をそれぞれのねらいで叶えられた夏休みという制約の無い時間を有効的に使えた

育てたい子どもの姿（年齢別保育目標に基づいたねらい）の振り返り

- 1年生** 他者のためという目的設定により他者の姿を考えることができ、視野が広がった
- 2年生** やりたいことや他者の意見に向き合い、最後までやり遂げる姿がみられた
- 3年生** 安心できる環境で、開放的に感情を表出して活動することができた
- 高学年** リーダーとして仲間たちをまとめ、細かく練り上げながらやりたいことを実現できた

保育士がすべきこと（ねらいを叶えるための環境・配慮点）の振り返り

- ①とみサマーを設定し、やりたいことが発信できた子をするだけでなく、活動が始まってから気持ちが惹かれた子の興味関心も受け止めて、それぞれの気持ちに寄り添った。
- ②職員による雰囲気づくりを含め、この環境なら取り組めるのではという場所や空間づくりをした。

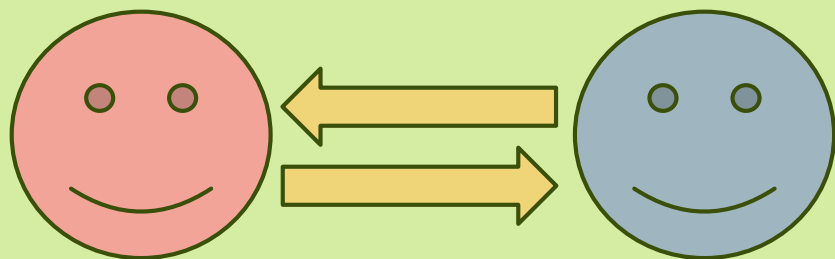
気付いたこと

言葉にとらわれがちな今年の傾向 ⇒ 言葉をまっすぐ受け止める姿



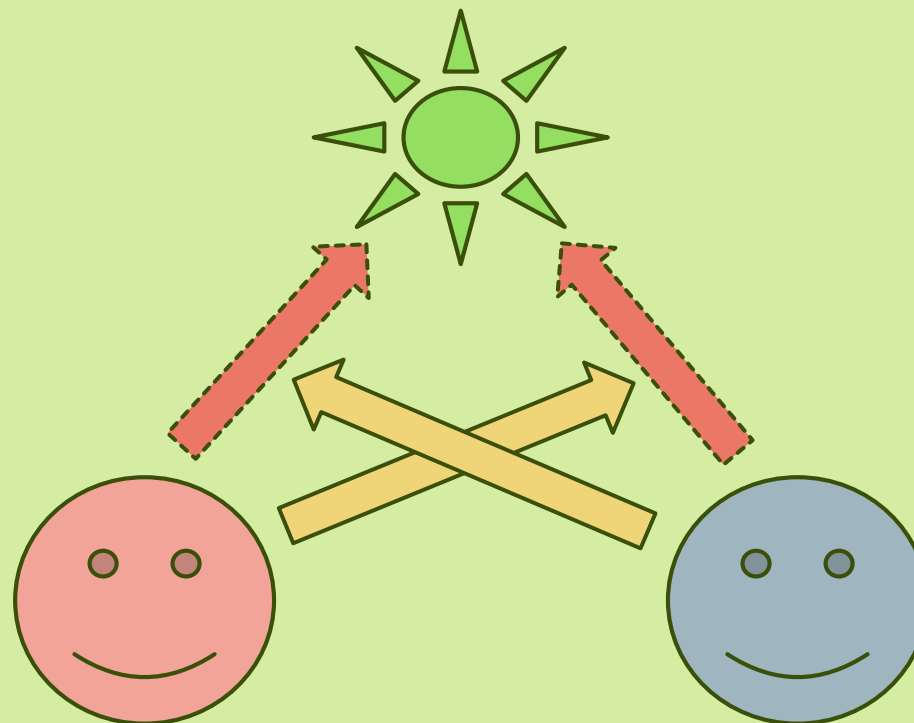
振り返り

図1 「2点の関わり」



相手のそのままの姿を捉える

図2 「3点の関わり」



自分と同じ目標に向き合う相手の姿を捉える